

西濃農林事務所の普及活動状況 令和4年4月25日現在

今月の重点活動

■水稲 ぎふ清流GAPの農場評価を実施

4月4日、神戸町の経営体で、ぎふ清流GAP（水稲）の認証へ向けた農場評価が行われた。当日は、JAにしみの職員と農業普及課の立ち会いのもと、経営体に対して、農場評価員2名が聞き取りにより農場評価を行った。安全・安心な農産物づくりや作業者の労働安全、栽培管理記録等について高い評価を受けた一方で、農場で行っているルールの手順化（文書化）や燃油の保管方法等についての改善提案を受けた。今後、一次評価を受けて、さらなる改善を行うことになる。

令和3年度末までに、管内では認証GAP取得が11経営体（ぎふ清流GAPは8経営体）となっている。農林事務所では、今後も現地指導を行い、GAPの取り組みを支援していく。



【農場評価の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■指導農業士連絡協議会 西南濃支部の総会が開催

4月19日、西濃総合庁舎において、指導農業士連絡協議会西南濃支部総会が開催された。総会は(14)名の会員が出席し、事業報告や事業計画等について上程され、全ての協議事項が承認された。

令和3年度はコロナ禍が続く中、行動に制限がされることが多く、十分な活動が出来ていなかったが、令和4年度は少しでも活発な活動ができることが期待された。農林事務所は、今年度も指導農業士の活動を支援していく。



【総会の様子】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■小麦 採種ほ場で出穂期審査を実施

4月21日、海津市において、岐阜県種子審査員に任命された農業普及課職員と関係機関担当者により、小麦採種ほ場の出穂期審査を実施した。審査は優良種子の確保を目的に、県が定めた審査マニュアルに従い基準どおり栽培がされているか、登録された採種ほ場ごとに実施した。市内2法人により小麦の主要品種「イワイノダイチ」と「さとのそら」の種子が生産されており、今後5月中旬の糊熟期審査を経たのち、57haで約142tの種子生産が見込まれている。

農林事務所では、引き続き優良種子の確保に努める。



【小麦ほ場審査（出穂期）】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■水菜 栄養・機能性表示について食品科学研究所と打合せ

4月20日、農林事務所は神戸町水菜生産者、JAとともに、県食品科学研究所（岐阜市）を訪問し、「栄養・機能性表示」について相談を行った。生産者からは、従来の生産販売から脱却し、「ぎふ清流GAP」に加え、「特別栽培農産物」「栄養・機能性表示」を行いたいとの要望があった。「栄養・機能性表示」については、初めての取り組みであり、まずは専門機関へ相談することとした。

農林事務所では、研究所等関係機関と連携し、産地の課題解決を支援していく。



【県食品科学研究所】

■ナシ 南若森園芸組合 花粉の発芽検査

4月8日、南若森園芸組合を対象に、ナシの花粉の発芽検査を行った。ナシでは人工受粉を行っており、安定・多収生産のためには、使用する花粉の発芽率の確認が必要である。

当日朝、南若森地内の倉庫に生産者が花粉を持ち寄り、あらかじめ農林事務所が準備した寒天培地の上に花粉を撒いた。その後、恒温器内で花粉を発芽させ、その発芽率を確認し、その日の夕方に生産者に報告した。花粉の発芽率は生産者により差が見られたが、ナシの開花期は晴天に恵まれたことから、安定した受粉により、例年以上の多収が期待される。

農林事務所では、夏に向けて、おいしいナシづくりを支援していく。



【花粉の発芽試験】

■きゅうり 現地検討会・栽培研究会開催

4月20日、JAにしみの海津胡瓜部会主催で、種苗業者とJA関係機関により生産者ほ場の現地巡回が行われた。その後、海津中支店において、部会員全員を対象に栽培研究会が開催された。種苗業者からは、巡回結果を踏まえて品種毎の栽培管理のポイント等について情報提供がされた。

農林事務所からは、今作の導入品種についての評価やアザミウマ、コナジラミの発生状況、またそれらが媒介するウイルス病の被害状況についてのアンケート調査と、施設園芸省エネ設備の導入支援事業を紹介し、要望調査を行った。燃油等高騰が続く中、経営支援を行っていく。



【研究会の様子】

■冬春トマト トマトの黄化病の発生状況調査

令和3年産において、新たな病害としてトマト黄化病の発生が確認されている。令和4年産においても、黄化病が疑われる病斑が認められるが、生理障害の苦土欠乏症状と酷似し、現地で容易に判断ができない状況となっている。このため農林事務所では、農業技術センター病理昆虫部の協力を得て診断を行っており、4月14日に新たに11の生産者から18サンプルを採取した。

今後、その診断結果を生産者に報告し抜き取り等の対策をすることとしている。農林事務所では、引き続き農業技術センターと連携し試験研究課題としての対応等、産地維持に向けて支援していく。



【調査の様子】

地域資源を活かした農村づくり

■女性農業経営アドバイザー

第25回 GLAMA いきいきネットワーク通常総会の開催

4月20日に、第25回 GLAMA いきいきネットワーク通常総会が、オンラインで開催された。西濃ブロックは岐阜県スマート農業推進センターの会場から参加し、農林事務所は会場運営を支援した。

今年度、西濃ブロックは GLAMA いきいきネットワークの広報担当ブロックにあたり、広報誌を年2回発行する予定である。

農林事務所では、引き続き西濃ブロック女性農業経営アドバイザーの活動を支援していく。



【オンライン開催による通常総会】